

Y02a 日本の教科書における日食の扱いの変化について

塩田淳悟, 福江 純 (大阪教育大学)

2008年に幼稚園教育要領・小学校学習指導要領・中学校学習指導要領が公示され、幼稚園では2009年度、小学校では2011年度、中学校では2012年度から完全実施されている。

今回の改訂により、中学校指導要領の内容に「日食」が復活し、また、どの教科書会社でも日食について扱うようになった。しかし、教科書を過去に遡ってみると、今回の学習指導要領に改定される前から、日食を扱っている教科書が複数存在することがわかった。

今回の研究では、戦後に検定された教科書から、現在使用されている教科書まで、教科書が変化していく中で、日食に関わる内容が戦後からいつまで扱われていたのか、また、再び日食が扱われ始めたのは、いつからなのかを調べるとともに、戦後から現在に至るまでに日本で観測された日食を調べ、教科書で日食が扱われることと、日食の発生には関連性があるのか、またあるとすれば、日食の発生から教科書に日食の内容が載せられるまでどれだけの時間差があるのかを調べた。

研究には大阪教育大学附属図書館に保存されている教科書を使用した。教科書に記載されている検定年から、何年から日食を教科書で扱わなくなったのか、もしくは扱い始めるようになったのかを調べた。また、日食については、戦後から現在に至るまで、日本で何年に皆既・金環日食が観測されたのかを調べた。

以上から、「日食が起こった年」と「教科書で日食が扱われるようになった年」もしくは「日食が扱われなくなった年」に関係があるか検証した。日食が日本で観測されて、その後に教科書に載せられるようになるには2年の時間差があると考えられた。